

森をイメージして丹精を込めた作品。

北海道は大いなる大雪山の峰々と、石狩川の清流に育てられた大自然。冬が近づくと森は葉を落とし、生きる限界まで水分を吐き出し寒中のしばれに耐えようとする。極寒の頃、静かな森の中に響き渡るバーンという音。しばれに耐えきれず凍りつき、その身が縦に裂ける木もある。

自然の厳しさを生き抜いた森が春を迎え、溶けた雪が谷に沢にせせらぎの響きとなる頃には、木の芽がふくらみ、やがて葉を繁らせる。何十年、何百年という年月を耐え生き続けてきた木。その中にクマやキツネ、また楽しげに語り合っている小鳥たち…。神秘的で温もりある素材の木を使い、森と音をテーマに作り上げた。

木の響きを家庭で楽しむ贅沢な時間。

どんぐりコロコロ



枝の間をカラコロとリズムカ
ルな音を立てて木製のどんぐ
りが転がり落ちる。
知恵を絞ったのは、幹に対す
る枝の角度と玉の重さ。木を
丸くしただけの玉では、弾んで
枝を越えてしまう。一定のリズ
ムを刻みつつ、玉が幹から離
れないように工夫を重ねました。



先端に取り付ける「フクロウ」「星」は別売となっています。サイズ毎に、ご注文下さい。



55



56



57



58



59

こずえに仲睦まじい二羽の小鳥。幹のてっぺんに可愛い卵。巣穴もあって、この木は小鳥一家の住まいをカタチにしました。巣穴に卵を入れると、落ちながら卵が幹の小穴に差し込んだ枝に当たって、木琴のようにチロチロビヨビヨと鳴る。

小鳥たちの楽しげな歌声を聴いてみよう。

森のさえずり



65



64



63



62



61



60